

育成モノづくり人材

Vol. 80

茨城県立土浦工業高校

高度経済成長期の1人の人材を輩出して
959年(昭34)、茨城

城東南部初の工業高校として開校した茨城県立土浦工業高校。これまでに約1万5000



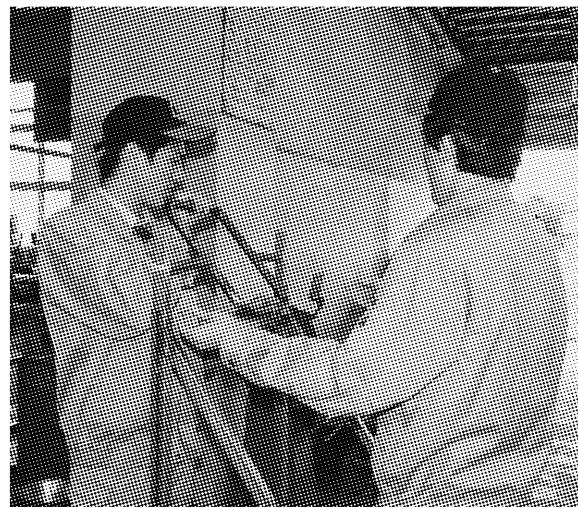
清水校長

清水信昭校長は生徒の学科に沿ったテーマに向けて、日頃から生徒が決め、215「2060年の産業界人程度のグループで作業を想像しなさい」と授業や実験に取り組む。総人口に占与えられたテーマでない

課題研究で「解決力」養う

める生産年齢人口の割合が減少する中で、課題を発見し、60年には5割になると推計がある。そうした時代の中で社会を引っ張っていく人材を育成するため、同校は課題研究と実習に特に力を入れている。課題研究では、各自「高校生ものづくり」

【DATA】▷校長=清水信昭氏▷所在地=茨城県土浦市▷学科構成=機械科、電気科、情報技術科、建築科、土木科▷生徒総数=699人▷主要設備=マシニングセンター、数値制御(NC)旋盤、バックホーン、電気機器装置など▷主な進路=アイリスオーヤマ、一条工務店、キヤノン、ファナック、LIXIL、関東電気保安協会、日本自動車研究所、千葉工業大学、日本工業大学、土浦産業技術専門学校など



また、自律型ロボットの世界競技大会「ワールド・ロボット・オリンピック」では、同校の情報技術研究部の生徒3人によるチームが今年全国大会に出場し、「ミドル競技」で優勝した。運動部は、

課題研究では部活動で使う練習用具を生徒自ら製作することもある。同好会は今年関東大会に出場するなど早速躍進。校舎にほど近い霞ヶ浦で、日々練習に励む。

清水校長には、過去に20年ほどサッカー部の顧問を務めた経験がある。「授業では学びきれない人との信頼関係の築き方を部活動で学べる。生徒が社会に出て組織を引っ張る立場に立ったとき、この経験がきつと役に立つ」と、部活動に力を入れることの重要性を強く認識する。

(茨城・大原翔)
(金曜日に掲載)